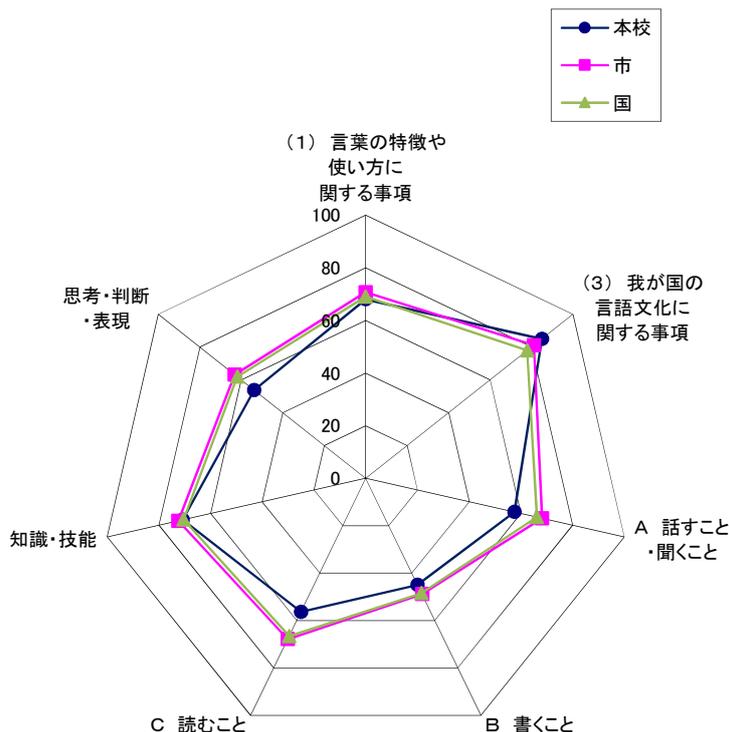


宇都宮市立清原北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	68.0	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	85.0	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	57.5	68.2	66.2
	B 書くこと	45.0	48.9	48.5
	C 読むこと	56.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	70.8	72.5	70.5
	思考・判断・表現	53.8	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市より2.7ポイント、国より1.0ポイント低い。 ○話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題や文章の中で漢字を正しく使う問題の正答率は、国の正答率より高い。 ●話し合いの中で発言の理由として適切なものを選択する問題の正答率は、国より8.8ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字については、既習の漢字について、確認テストなどを計画的に行い、着実な定着を目指す。また、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導したり、作文指導の際に、辞書を活用させたりする。 ・基本的な語句の使い方は、学習プリントなどで復習を行うことにより定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市より3.9ポイント、国より7.1ポイント高い。 ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題の正答率は、国より7.1ポイント高い。	・文を書く際の漢字や仮名の大きさ、配列を捉える問題については、授業中に正しく書くよう指導を行ったり、朝の学習の時間や宿題等を活用して、繰り返し練習問題に取り組んだりして、習熟を図る。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、市より10.7ポイント、国より8.7ポイント低い。 ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題では、正答率が国より12.7ポイント低い。	・授業や学級活動などでの話し合い活動を充実させ、話し手・聞き手、それぞれの立場から意見や思いを積極的に理解し合う経験を積ませる。
B 書くこと	平均正答率は、市より3.9ポイント低く、国より3.5ポイント低い。 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題の正答率は、国より7.3ポイント高い。 ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題では、正答率が14.2ポイント低い。	・日常生活の中で、授業の振り返りや短作文などを多く取り入れ、目的や意図、内容に応じて自分の意見を整理しながら書く力を養う。 ・書きたいことを相手に伝わりやすく表現するために、必要な項目を提示し、文章の構成の方法を考えてから、文章を書くことができるように指導する。
C 読むこと	平均正答率は、市より11.6ポイント、国より10.3ポイント低い。 ●登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える問題の正答率は、国より13.4ポイント低く、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題の正答率は、18.3ポイント低い。	・伝記や感想文、報告文など様々な目的で書かれた文章や、レポートやレシビ、メモなど様々な形態の文章などにも触れられるよう、日々の読書を奨励したり、図書館司書と連携した読書活動を取り入れたりすることで、より充実した読書体験をさせ、読解力を高めていけるようにする。 ・自分の意見を持ち、多様な視点や考えをもちながら文章を読み解くことを示し、自分の考えをまとめる活動を計画的に取り入れ、友達と伝え合ったり、話し合ったりする時間を設け、考えを広げたり、深めたりする経験を積ませる。